

エネルギー白書から

シリーズ第二部 「3・11及びその前後から顕在化してきた課題」

13 シェールで再びエネルギー自給に向かいつつある米国

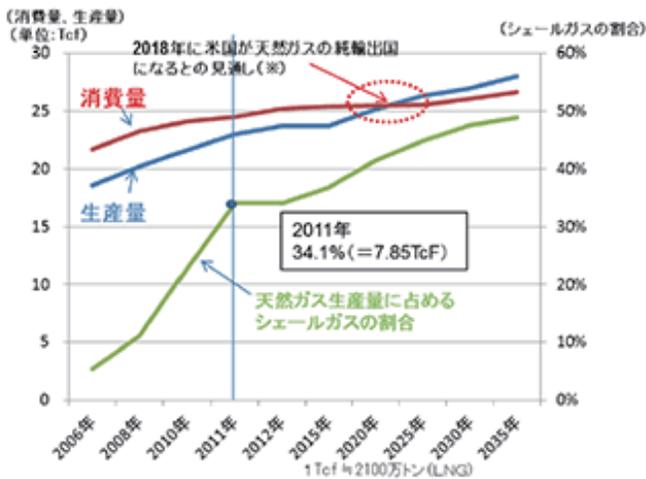
北米では2000年代後半以降、シェール層に含まれる非在来型の天然ガス・原油の商業生産が行われるようになりました。特に、米国では、シェールガスの増産に伴い、2018年には天然ガスの純輸出国になることが見込まれているとともに、シェールオイルの生産拡大に伴い、2008年以降、米国の原油輸入量は減少傾向にあります。

世界に目を向けると、シェールガスの資源量は約7,300兆cf（LNG換算：1兆5,328億トン）で、天然ガスの埋蔵量を約1.5倍増加させます。また、シェールオイルの資源量は、約3,450億バレルで、石油の埋蔵量を約1.2倍増加させます。
（[参考] 在来型資源の埋蔵量（IEA試算）：天然ガス16,308兆cf（LNG換算：3兆4,250億トン）、石油：約2兆2,450億バレル）

このように、非在来型の石油・ガス開発は北米以外の地域でも取組が進められつつあり、シェール革命は今後の国際的なエネルギー需給構造を大きく変化させる可能性があります。

米国の天然ガスの生産量、消費量、輸出入の実績・見通し

●米国の天然ガス生産量・消費量の見通し



●米国のLNG輸入見通し



(出典) 左) EIA「Annual Energy Outlook 2012, 2014「Early Release版のReference Case」を基に作成
右) EIA「Annual Energy Outlook 2013 Early Release、2005、2009、2011」を基に作成